

Funehiki High School News vol.93

◆入学おめでとう



誓いの言葉を述べる遠藤遥奈さん

平成 27 年度の入学式が 4 月 9 日に行われ、普通科 120 人の入学が許可されました。

新入生代表の遠藤遥奈さん(川内中出身)は「校訓である『自律』を胸に刻み、何事にも一生懸命取り組みたい。多くのことを学び、社会に貢献できるよう頑張りたい。」と誓いの言葉を述べました。

また、翌 10 日には新入生と在校生との対面式が行われました。新入生は生徒会長の三浦早人さん(移中出身)から歓迎のあいさつ

を受け、代表の本田巧さん(移中出身)が「高校 3 年間で色々な経験を積み、大きく成長したい。船引高校を卒業する時に、全員が良い 3 年間だったと感じることができるよう、一日一日を有意義に過ごしたい。」とあいさつしました。



1 学年担任・副担任の教師を紹介



対面式での三浦さん(右)と本田さん(左)

◆部活動紹介

美術部の作品紹介



4 月 13 日、生徒会主催の部活動紹介が行われました。

運動部、文化部合わせて 15 の部が、新入生に対して日頃の練習や活動の様子を紹介しました。新入生は、先輩方のパフォーマンスを熱心に見入り、感動している様子でした。

新年度になり、どの部活動も、1 人でも多くの部員を迎え、上位大会への進出や完成度の高い作品の制作を果たしたいと、日々の練習に励んでいます。今後とも船高生の活躍にご期待くださるとともに、なお一層の応援をよろしくお願いいたします。



バドミントン部の実演

◆デュアル実習調印式

4 月 16 日、本校会議室で船引高校と田村市、地元事業所の連携人材育成事業「デュアル実習」の調印式が執り行われました。

式では、田村市長の冨塚宥暲氏をはじめ、実習企業・施設代表として常葉幼稚園園長の武田幸子氏からあいさつをいただきました。実習生を代表して 3 年 3 組の志田駿悟さん(船引中出身)が「コミュニケーション力や礼儀作法をしっかり学び、将来社会に貢献できるよう頑張りたい」と抱負を述べました。式の最後に、株式会社白石モータースの白石高司氏と 3 年根岸健太郎さん(岩江中出身)の保護者、校長の伊豆幸男氏が書面に調印しました。

本年度のデュアル実習生の人数は、2 年生 20 人、3 年生 16 人の計 36 人です。2 年生は毎週火曜日、3 年生は毎週木曜日に各企業・施設でお世話になります。



新しいことの始まり



Justin Hall
ジャスティン・ホールさん
(アメリカ合衆国
オハイオ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	23

ようやく春が来ました。季節の変化、桜の開花、新しい始まりの時です。私が田村市で新しい生活を始めてから 1 年になります。

私は田村市に来る前に、日本に来たことがあります。大学生の時に、学校の 1 学期分の授業の代わりに、東京で 3 か月間、日本語を勉強しました。その時は、日本語や日本について何も知りませんでした。3 か月の間にたくさんのことを学びましたが、時間はあっという間に過ぎていきました。

その経験があったので、5 年後に日本へ戻ってきただけからの日本での生活には、予想できることがありました。東京と田村の違いが分かっていくにつれて、自分の予想が誤りだったことに気づきました。カルチャーショックがおさまらず、ここでの生活に慣れ始め、ついに田村は私の第 2 の故郷とを感じる場所になりました。それは素晴らしい田村市の人々のおかげであると、若草学園、中学校の先生方、日本の友人たちに感謝しています。まだ人々の心の中に鮮明な記憶として残っている福島第一原発事故の悲劇から立ち直ろうとする中で、外国人を温かく迎え入れ、友好的な場所を与えてくださっているすべての方々に感謝したいです。誰もがとても親切で、若草学園の外国人英語教師と交流する時にも、文化や言葉の壁を打ち破ろうとしてくれます。同時に、私たちも田村の地域共同体に何かをもたらすことができるように、ベストを尽くそうとしています。

そのためには、日本語を学ぶことも挑戦です。私は基本的な会話を日本語で話すことができますが、日本語で“本当の”会話をする時に、日本語特有の難しい言葉や表現があると、立ち往生してしまうことがあります。そして、日本語を学ぶことは、他の言語を学ぶよりも難しいと感じる時もあります。しかし、そのような時は、私から英語を教わって勉強している生徒たちのことを思い、私も“頑張っている”のです。ですから、日本の方と込み入った話し合いができることには、価値があると思います。

田村での日常生活で私が最も好きなことは、田村市の人々、生徒たち、保護者の方々など、アメリカ人とまったく異なる生活や考え方をする人々と交流して、その交流から互いに何かを得ることです。

今、さらにたくさんの新しいことが始まる季節です。冬は去りました。福島は癒しと復興の途上にいます。中学 3 年生は卒業して高校へ進学しました。新たに 6 名の外国人英語教師がやって来ました。私にしてくださったように、どうぞ彼らを優しく迎え入れてください。

“どうもありがとうございます”。

